

五 ワシントン海軍軍備制限条約廃止通告方ノ件審査報告

大正十一年二月六日「ワシントン」ニ於テ署名セラレタル海軍軍備制限ニ関スル条約廢止通告方ノ件審査報告

今回御諮詢ノ大正十一年二月六日「ワシントン」ニ於テ署名セラレタル海軍軍備制限ニ関スル条約廢止通告方ノ件ニ関シ本官等審査委員タルノ命ヲ受ケ本月十一日國務大臣ノ出席ヲ求メテ審査委員会ヲ開キ詳ニ其ノ弁明ヲ聴キテ之カ查覈ヲ遂ケタリ

抑々本件ノ海軍軍備制限ニ関スル条約ハ大正十一年二月華盛頓ニ於テ日、英、米、仏、伊ノ五国間ニ締結セラレタルモノニシテ右五国ノ保有シ得ヘキ主力艦及航空母艦ノ總噸數ヲ制限シ其ノ帝國ノ保有量ヲ英、米兩國ノ十二對シ六ト為スコト並日、英、米三國ノ一定ノ地域内ニ於ケル太平洋諸島ノ要塞及海軍根拠地ノ防備ヲ當時ノ現状ニ止ムルコトヲ約定スルヲ以テ主眼トシ其ノ第二十三條ニ於テ本條約ハ昭和十一年十二月三十一日迄効力ヲ有シ締約國中右期日ノ二年前ニ廢止ヲ通告シタルモノナキトキハ一締約國力廢止ヲ通告シタル日ヨリ二年ヲ經過シタル後全締約國ニ對シ終了スヘキ旨ヲ定メタリ然ルニ当局大臣ノ説明ニ依レハ該條約締結以後既ニ約十三年ヲ經過シ此ノ間國際情勢ニ多大ノ變遷ヲ生シ殊ニ東洋ニ於テ其ノ著シキモノアリ加フルニ輓近一般科學ノ顯著ナル進步ニ伴ヒ艦船兵器及航空機ニ異常ナル發達ヲ來シ艦隊ノ航続力、速力、砲煩威力、防禦力、通信力、見張力等著シク増加シ其ノ結果海洋ノ兵術的距離ヲ短縮シ渡洋作戰ノ実施ヲ容易ナラシメ為ニ防者ノ地位ニ立テル場合ニ於ケル帝國ノ地理的優位ヲ頗ル減殺スルニ到リシノミナラス更ニ前記條約ノ制限外ノ地域ニ於ケル英、米兩國ノ防備施設ノ擴張ハ益々帝國ノ軍事上ノ地位ヲ不利ナラシムルモノアリ且最近蘇、支兩國ニ於テ海軍及航空兵力ヲ増大シタル事實ニ直面シテハ一朝有事ノ際ノ為ニ帝國ノ軍事的施設ニ相當ノ考慮ヲ加フルノ必要ナシトセス而シテ前述ノ艦船、兵器及航空機ノ發達ト海上戰鬪様式ノ變遷トニ因リ前記條約カ防備ノ擴張ヲ禁止シタル帝國ノ近接地域ニ於ケル外國ノ軍事施設ハ著シク其ノ価値ヲ減少セルカ故ニ其ノ施設ノ現狀維持ハ以テ帝國所要兵力ノ一部ノ代償トスルニ足ラサルニ至レリ斯クテ帝國ハ前記條約ニ依ル對英米劣勢比率ノ兵力量ヲ以テシテハ國防上ノ脅威ヲ感セサルヲ得ス國防ノ安全ヲ期スル為ニハ何時ニテモ英、米兩國ト均等ノ兵力ヲ充實シ得ルノ權利ヲ確保スルヲ以テ必要条件ト

為スモノニシテ從テ帝國ハ成ルヘク速ニ該條約ノ束縛ヨリ離脱セサルヘカラサル境地ニ在ルモノナリ時偶々本年六月ヨリ英國政府ノ招請ノ下ニ關係國政府代表者間ニ明年倫敦海軍條約ニ依リ開催セラルヘキ會議ノ予備交渉カ倫敦ニ於テ開始セラルルヤ帝國政府ハ從前ノ比率主義ヲ排シテ新ナル制限方式ヲ採リ以テ公正妥當ナル軍備縮小ノ條約ヲ締結セムコトヲ欲シ新方式ノ根幹トシテ帝國國防ノ安固ヲ期シ得ル範圍ニ於テ各國ノ保有シ得ヘキ兵力ノ共通最大限ヲ定メ軍備縮小ノ精神ヲ發揮スル為右限度ヲ成ルヘク小ナラシメ且攻撃的兵力ヲ極力縮減シ防禦的兵力ヲ整備シ以テ各國俱ニ攻ムルニ難ク守ルニ不安ナキヲ期スルヲ主義トスルコトヲ決シタリ此ノ根本方針ハ前記條約ニ於ケル比率主義トハ柄鑿相容レサルモノナルカ故ニ帝國政府ハ該條約ヲ其ノ当初所定ノ有効期間タル昭和十一年十二月末日限り終了セシムル為本年十二月末日以前ニ其ノ廢止ヲ通告スルヲ可ナリトシ而モ今次ノ予備交渉ヲ成ルヘク友好的且効果的ニ進捗セシムル為關係國共同シテ右條約廢棄ノ聲明ヲ為スヲ妥當ナリト認メ之ヲ關係國政府ニ提唱シタルモ其ノ同意ヲ得ルニ到ラザリシニ由リ茲ニ内閣ハ帝國政府ニ於テ該條約第二十三條ノ規定ニ依リ單獨ニ之カ廢止ヲ通告スルノ措置ヲ執ルコトニ一決シ之ヲ本院ノ詢議ニ付セラレタルモノニシテ之カ御裁可ノ上ハ米國駐劄帝國大使ヲシテ米國政府ニ對シ該通告ノ手續ヲ行ハシメムトスルナリ

本件ノ海軍軍備制限條約廢棄ノ措置ハ我カ國運ノ將來ニ及ホスヘキ影響甚大ニシテ事態頗ル重要ナルカ故ニ本官等ハ諸多ノ事項ニ関シテ當局大臣ニ質問シ其ノ答弁ヲ得タリ今其ノ要点ヲ摘記スレハ左ノ如シ

(一)帝國カ本件條約ノ廢棄ヲ通告スルヤ同條約第二十三條ノ規定ニ依レハ明年中ニ締約國全部ノ會議ヲ開催スヘキモノナリ然ルニ今次倫敦ニ於ケル予備交渉ニ於テ商議容易ナラザリシ情勢ニ鑑ミ他ノ關係諸國政府カ明年中ニ會議ヲ開催スルヲ無益ナリトシ其ノ延期ヲ提案シ之ニ贊同スルニ至ラハ之ニ對シテ帝國政府ハ如何ナル態度ヲ執ルヘキヤ此ノ質問ニ對シ外務大臣ハ帝國政府ハ本件條約ヲ廢棄スルモ固ヨリ衷心軍備縮小ノ目的ヲ達成セムコトヲ企圖スルモノナルカ故ニ新方式ヲ根幹トスル公正妥當ナル新條約ヲ締結スル為飽ク迄モ列國ノ諒解ヲ求メテ條約所定ノ會議ヲ開催セムコトヲ誠意ヲ以テ主張スルノ意圖ヲ藏スル旨ヲ答弁セリ

(二)當局大臣ノ説明ニ依レハ軍備縮小ノ新方式ニ関スル帝國政府ノ提案ハ其ノ新方式ニ則リ各國兵力量ノ共通最大限ヲ協定シ得タル曉ニ於テモ其ノ限度ヲ超過セル各國現有兵力ノ廢棄ニ付テハ相當ノ猶予期間ヲ存置スルノ趣旨ナリト言フ然ラハ其ノ猶予期間内ハ各國現有ノ兵力量ニ差別アルカ故ニ若シ其ノ期間長キニ過クルコトアラムカ帝國政府提唱ノ新方式ニ依ル軍備制限ハ事實上其ノ効果ヲ喪失スルニ至ルヘシ此ノ點ニ関スル質問ニ對シ海軍大臣ハ理正ニ然ルカ故ニ右猶予期間ハ固ヨリ濫ニ之ヲ長クスルコトナク寧ロ成ルヘク之ヲ短カカラシムルヲ当然トスル旨ヲ答ヘタリ

(三)本件條約廢棄ノ後之ニ代ハルヘキ新條約ノ成立セサル場合ニ於テハ列國間ニ製艦競争ヲ惹起スルコトナキヤ是レ何人モ直ニ想到シテ切實ニ考慮スヘキ所ナリ此ノ點ニ関シ海軍大臣ハ專心軍備縮小ヲ念トスル帝國カ自ラ進テ製艦競争ヲ誘致スルカ如キ事ニ出ツルコトナキハ言フ俟タス將來列國間製艦競争ノ虞絶無ナリトハ固ヨリ斷言シ得ヘキ限ニ在ラサルモ之ヲ各國ノ情勢ニ察スルニ孰レノ國ニ在リテモ事實上製艦能力ニ制限アリ且艦船乗員ノ充實ハ短時日ニ成シ得ヘキモノニ非サルカ故ニ大規模ナル製艦競争ヲ惹起スルカ如キコトハ寧ロ予想シ難キ所ナル旨ヲ言明シタリ

(四)本件條約廢棄ノ後帝國ノ海軍軍備充實ノ為將來帝國ノ財政ニ如何ナル影響ヲ及ホスヘキヤ或ハ之カ為國家ノ財政ニ重大ナル負担ヲ來スコトナキヤ此ノ點ニ関スル質問ニ對シ海軍大臣ハ帝國ニ於テハ該條約ノ拘束ヲ脱スルノ結果旧艦ト雖尚之ヲ保留スルヲ妨ケス又我カ國防上特殊ノ要求ニ最モ能ク適応スヘキ艦船ヲ建造スルヲ得其ノ他自由ニ選擇シテ比較的經濟的ニシテ而モ有効ナル整備ヲ為シ得ヘキヲ以テ從來ノ條約所定ノ兵力量ヲ保有スルニ必要ナルヘキ費額ニ比シ將來著シキ増額ヲ國庫ノ負担ニ歸スルコトナカルヘキ見込ナリト弁明セリ

(五)本件條約廢棄ノ後英、米兩國ハ帝國ニ對スル關係ニ於テ太平洋諸島ニ於ケル防備ノ制限ヲ受ケサルコトト為ルノ結果我カ國防上ニ不安ヲ來スコトナキヤ此ノ點ニ関シテモ海軍大臣ハ今後該兩國カ巨費ヲ投シテ同條約ノ制限地域内ニ於ケル太平洋諸島ノ防備ヲ擴張スルカ如キコトハ「(編註)事實上」固ヨリ必無ナリト斷言シ得サルモ諸般ノ情勢ヨリ考フルトキハ斯クノ如キコトハ寧ロ予想シ難キ所ナルノミナラス近時ノ進歩シタル事態ニ於テハ右等防備ノ価値ハ著シク減殺セラレタ

ルヲ以テ仮令之ニ関シ条約上ノ制限ナキニ至ルモ我カ国防上深く介意スルニ足ラサルヘキ旨ヲ弁明セリ

(内)帝國政府ハ曩ニ國際連盟ヲ脱退シタルニ加ヘ今又本件条約ヲ廢棄スルニ於テ帝國ノ國際的地歩ハ一段ノ難ヲ來スコトナキヲ保セス或ハ累ヲ南洋群島委任統治ノ問題ニ及ホスカ如キコトナカルヘキヤ此ノ点ニ関スル質問ニ対シ当局大臣ハ國際連盟脱退以後帝國ニ関スル情勢ニハ別段ノ變化ヲ認メス帝國ノ南洋群島委任統治ニ付テハ今後ニ在リテモ恐ラクハ列國トノ間ニ紛議ヲ生スルカ如キコトナカルヘク又此ノ問題ニ関スル帝國政府ノ決意ハ國際連盟脱退當時ト同様ナル旨ヲ答弁シタリ

(外)他日米國カ蘇、支兩國ノ勢力ヲ利用シテ我國ヲ圧迫スルカ如キ事態ヲ生スルノ惧ナキヤ之ニ対スル我カ当局ノ用意如何此ノ質問ニ対シ外務大臣ハ各般ノ外交工作ニ最善ノ注意ヲ払ヒ以テ万一ニモ斯クノ如キ事態ヲ生セシメサルコトニ努ムヘキ旨ヲ答ヘ陸軍大臣ハ支那ノ勢力ハ姑ク措キ蘇國ノ勢力ニ付テハ同國カ極東方面ニ於ケル兵備ノ充實ニ汲々タルノ現狀ニ鑑ミ帝國ニ於テモ深く警戒ヲ要スルモノアリ之ニ対シテハ常ニ最善ノ用意ヲ怠ラサルヘキ旨ヲ答ヘタリ

按スルニ本件ハ帝國海軍軍備ノ根幹ニ関スル重要案件ニシテ外交、国防、財政ノ各方面ニ至密至大ノ連繫アリ帝國ノ前途ノ為ニ最モ慎重ニ考慮セサルヘカラサル所ニ屬ス乃チ本官等ハ潛思熟慮具ニ研覈ヲ遂ケタルニ之ヲ各般ノ利害ニ察シ就中國防ノ安全ヲ保障スルノ必要ニ考ヘ今ニ於テ帝國政府カ單獨ニ夫ノ華盛頓締結海軍軍備制限條約ヲ廢棄スルノ舉ニ出ツルハ洵ニ已ムヲ得サル措置ナリト認ムルノ外ナシ唯事此ニ出テタル後繼テ執ルヘキ帝國政府ノ処置ニ付テハ關係当局ニ於テ常ニ最善ノ用意ヲ怠ラス以テ苟モ帝國ノ國歩ヲ愆ラサラムコトヲ期スヘキハ言ヲ俟タサル所ナリ仍テ審査委員會ニ於テハ當局不斷ノ努力ニ期待シ本件ハ此ノ儘之ヲ可決セラレ然ルヘキ旨全会一致ヲ以テ議決シタリ

右審査ノ結果ヲ報告ス

昭和九年十二月十四日

審査委員長

枢密院副議長男爵 平 沼 騏 一 郎

審査委員

枢密顧問官男爵	富 井 政 章
枢密顧問官	荒 井 賢 太 郎
枢密顧問官	河 合 操
枢密顧問官子爵	石 井 菊 次 郎
枢密顧問官	有 馬 良 橘
枢密顧問官	原 嘉 道
枢密顧問官	清 水 澄
枢密顧問官男爵	林 権 助

枢密院議長男爵 一 木 喜 徳 郎 殿

編註

原文の「事实上」は海軍省の希望に依り削除し、「固ヨリ必無ナリト断言シ得サルモ諸般ノ情勢ヨリ考フルトキハ斯クノ如キコトハ寧ロ」と変更された。